



## 特集 「戦争とハンセン病」

「戦争とハンセン病療養所の子どもたち」を受講し、ドキュメンタリー映画「新・あつい壁」を鑑賞。自分自身が当事者になったらどうするかを考えた。

### 逃げ場を失った子どもの「生き延び方」とは？

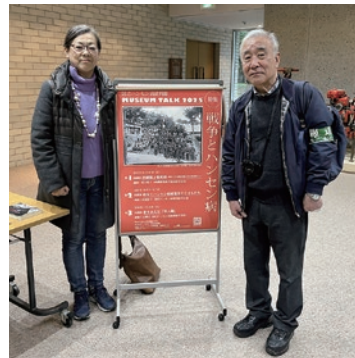
第二次世界大戦が始まり学校へも行けなくなった子どもたちの居場所は、強制隔離された長島愛生園療養所だった。流動性のない中で生き抜いていくには、「子どもらしさ」を捨てることでした。支配する大人は兵役を免れた人や母にならなかった人。強者としての子どもたち。弱者としての子ども。子どもたちと少数の大人が暮らす丘で、大人の言うことに逆らわない子どもが優遇され、また差別を受けた。

### 小さな時期に親と強制的に離された子どもたち

親の愛情を受けられない子どもたちの心細さは計り知れないものがある。詩を書くことが気持ちを表せる唯一の行為だったが、明るく前向きな詩だけが採用され、本質をついた内容は採用されなかった。大人の浅はかな上辺だけの取り繕う姿に憤りをおぼえた。

### ハンセン病が原因で亡くなっている子どもたち

閉鎖され自給自足を子ども達にも強いたことで、栄養面や環境面も劣悪な中で生き抜くことができなかった。



はなこタイムズの飯岡 志郎さんと。国立ハンセン病資料館にて

た子どもたちの死因は栄養失調、肺結核でした。足が不自由な子は、いじめの対象にされ、居場所を無くしてしまふ。いじめに加担せざるを得ない追い込まれた中で、生き抜くために自分の身を守っていたのかも知れませんが、被害者が加害者になり得ることがわかります。強いものが弱いものを支配するパターンリズムがここにも根深くあると感じます。

### 冤罪菊池事件を題材とした「新・あつい壁」を鑑賞

ハンセン病ではない証明を医師にもらい、親戚が集まり祝った翌朝に起きたダイナマイト事件。そして、Fさんはハンセン病にされ療養所内で警察の取調べを受け、隔離法廷の裁判から一方的にダイナマイト事件の犯人に仕立てられてしまふ。警察は弱い立場にある親戚を脅し嘘の自白をさせ、数々の証拠をでっち上げ、ハンセン病

にも罹患していないFさんの「やっていない」の発言を無視。当時、熊本県にはハンセン病の方々を収容する医療センター建設の話があり、ハンセン病の疑いと密告された人達まで収容する強引なやり方、無癰疽運動が盛んに行われていた時期とも重なる。自分が親戚の立場に置かれたら、どうか。本来は被害者のはずが、加害に加担してしまわないうかに気づける映画です。

### 現代でも差別、偏見は蔓延している

記憶に新しいのは熊本県のホテルで起きたハンセン病患者宿泊拒否事件。「お前たちは、ホテルに行くよりも、温泉に入るよりも早く骨壺に入れ」など非情な手紙が送りつけられました。道徳の教科書で障害者には優しく、思いやりを持つなどと教わるよりも、加害の側になる想定が学び合いの方がはるかに生きた教育になります。

### ハンセン病問題は、今、現在も続いている

らい菌を恐れる余り、らい病患者者を排除したことが、家族離散や一家心中などの悲劇を生んだ。二度と繰り返さないためにも自分の差別心・優生思想と向き合う必要があるのではないのでしょうか？

### 冤罪菊池事件（藤本事件）で奪われた尊厳

役場の職員宅にダイナマイトが投げ込まれた殺人未遂事件、第2はダイナ

マイトが投げ込まれた被害者の殺人事件。懲役刑および死刑確定後も通常の刑務所や拘置所に移送されることなく、恵楓園内の菊池医療刑務支所に収容されたまま3度の再審請求を行ったがいずれも棄却。1962年9月14日福岡拘置所へ移送され死刑が執行されています。3度目の再審請求が棄却となった翌日のことでした。死刑執行後でも本人死亡でも、冤罪を、再審請求を国は認めるべきです。それが人間回復、人権尊重に繋がっていく道です。

### 差別や偏見は簡単には無くならない

ぜひ、国立ハンセン病資料館を！国立療養所多磨全生園を！訪れてください。

誤った国策である強制隔離・人権蹂躪の歴史を繰り返し、繰り返し、学び合うことで今を生きるわたしたちが、史実を正しく語っていきましょう。

（白石えつ子）



1/24(土)~3/29(日) 特別企画「ハンセン病問題と家族」の告知/国による誤った隔離政策と社会の偏見により、ハンセン病患者・元患者だけでなく、その家族も深刻な被害を受けてきました。国と社会の一人ひとりが問題解決のために何ができるかを共に考えたいと思います。

国立ハンセン病資料館 <https://www.nhdm.jp/>